

卒業生によるボランティア活動
グループ

“わ” 情報ぎやらくー

第15号

TEL (078) 743-8101

FAX (078) 743-8103

神戸市シルバーカレッジ 社会還元センター

グループ“わ” 情報誌編集部

「1000人のゴスペル大合唱」のイベントを終えて

実行委員長 中島 洋吉

この度「イベント」を終えて、実行委員の一人としての思いを述べさせていただきます。

この催しを実施するまでの間、多くの時間を割いて準備をして頂いた実行委員の方々、会場の飾り付けに貴重な手作りの作品で参画して頂いたの方々、前日から「イベント」に必要な調理に協力頂いたの方々、当日の運営に参画して頂いたの方々等多くの会員の皆さんに支えられて実施した今回の催しは、参加者の多くの方に喜んで貰えたと自負しております。

参画して頂いた多くの会員の皆様、また、この企画の実現のためにご協力頂いた、こうべ市民振興協会・神戸市シルバーカレッジ・関係役所の皆様本当に有難うございました。この紙面をかりて厚く御礼申し上げます。

当日、悪天候の中、参加して頂いた多くの方々、そして全員が音楽というリズムに酔って手を叩き、足を踏鳴らし、ハンカチを振って全身で楽しみを表現されている様子を拝見して、この企画を実行して本当に良かったと思っております。全ての準備を終えて、当日の朝目覚めたときは曇り空ながら雨は降っていない。やれやれ今日は付いているぞと喜んだのも束の間、出かける頃になってはポツポツと降り出した雨が、カレッジに着く頃には雪に変わり最悪の天候になってきた。今日に限ってこのような天気、と落胆しましたが、「ホワイトクリスマス」ならぬ「ホワイトゴスペル」も又良きかなと腹を決めて来場者待つ。

11時30分から開催の「もいちど出会えてありがとう」も予定時刻になっているのに招待した人の出足が悪い。今日は最悪と思っていたら、予定の時間を30分位過ぎた頃から大勢の人がぞくぞくと来られ先ずは一安心。

隣の教室で行っていた米国映画「天使にラブソングを…Ⅱ」のビデオ上映も、当初少なかった参観者が次第に増えて会場一杯となり、映画館より盛況の状態になってこれも一安心。最も心配した「ゴスペル」会場も悪天候に関わらず沢山の人に来て頂き最終的には600人を超える参加者となり、逆に天候が良かったら多数の人が会場に入り切れなかったのではと安堵もした。

“ゴスペル=福音”やはり神様が助けて下さったのだと、日頃信仰心の薄い人間が神様に感謝した一日でした。

昨年5月頃神戸市の「神戸 21 世紀・復興記念事業」事務局の方から、グループ“わ”もイベントを計画して参加して欲しいとの要請があり、どのようなイベントで参加しようかとスタッフで検討を重ねる過程で、ゴスペル合唱会をやってはとの意見が出された。当初はゴスペルのことが良く分からず、あまり乗り気ではなかったが、何回かスタッフとゴスペルの合唱会を聞きにいったり、勉強をしていく内に、多くの市民があの震災による被災の苦しみを克服し明日への希望に繋ぐ復興への努力をしている姿が、長い奴隷制度の苦しみ・差別の中で遠い故国アフリカを偲び、明日への希望と生きる意志を込めてアフロ・アメリカンの人たちが神に祈り歌ってきた「ゴスペル」と何か通じるものを感じ、鎮魂と明日への希望に燃えて翔いていることを表すイベントはこれしかない、今回の企画を決定しました。これからも多くの方が参加できる催しを計画しグループ“わ”の結束と存在意識を高めて参りたいと思っております。ご協力下さい。

ゴスペルのイベントを終えて (中島洋吉) ……表紙
ゴスペルのイベントに参加して (藤井奈緒美) … 2
今この街に希望を (宇野康司) ……………… 3
ゴスペルのイベントに参加して (松宮 節) … 4
——— “ ” ——— (荒木千尋) … 5
新米ゴスペラーダとして (湯原淳平) ……… 6
“わ”のみなきまへ (多久和みゆき) ……… 7

ゴスペルのイベントの受け付けをして (後藤慶子) … 8
クッキー作る楽しみ・贈る喜び (森岡典子) ……… 9
「おでん」はいかが (西村笑子) ……………… 10
ゴスペルのイベントを終えて (豊村栄一) ……… 11
視覚障害者の目となって (平林良直) ……………… 12
部会だより (吉岡乃夫子) ……………… 13
事務局から・インド大震災募金 (吉岡)・編集後記 (横田) 14

1000人のゴスペル大合唱に参加して

神戸マスクウィヤー 藤井 奈緒美

今回は、「1000人のゴスペル大合唱」にステージ上から参加できて感謝でした。私は大阪市に住んでいます。普段から神戸の北区となるとあまり来ることがなかったのですが、シルバーカレッジに到着することが、まず最初の課題でした。うれしかったことはたくさんあります。

一緒に歌うコーナの曲だけでなく拙い私のリードの入った「帰れやわが家に」をも歌って下さった方がいらっしゃったことが一番うれしいことのひとつでした。手拍子だけは、気が付けばこちらから思わず念力を送っていたりもしましたが、みなさんの暖かい見守りの中、良いひとときを持てました。初めて会った人とも一体感を感じて歌うことのできるブラックゴスペルをみなさんと共に楽しめるということは、素晴らしいことだと思います。

先ほども言いましたが、私は大阪に住んでいて、6年前のあの日も被害らしいものはありませんでした。あるきっかけで、某ボランティアグループにかかわり、春休み中だけ電話番をしていました。神戸には比べものにならないとはいえあんなに揺れた大阪なのに、私のいたところでは困っているお隣さんを助けようという気持ちが空回りしていることがよくありました。依頼がないことに不満をいう人、予定していた仕事がなくなったことで怒ってしまう人、自分勝手にしか行動しない人、またシステムの要因・・・短い期間でしたが、本当に人と協力することの難しさを感じました。

大阪ではすでに昔話のような雰囲気です。でも私は、大阪は被害がほとんどなかったからといって、他人事のようにになってしまうのは違うと思っています。大阪だからこそ言える何か、またできる何かがある気がしています。

しかし私も大勢の人のように、忘れてはいけないことさえ忘れてしまうのではないだろうか？ 今回の曲のひとつ「今この街に希望を」で私に突きつけられる問題です。我々の仲間にも人生の先輩がいます。先日のライブの時にわかりいただいたメンバーではありません。ブラックゴスペルの流行というのは若い人の間だけのイメージがありますが、すでに長い時間の中で培われてきたこの歌は、当事者であるアフロ・アメリカンの老若男女を問わずに歌われてきたものです。彼らの歴史や思想を尊重し、また歌いたいという気持ちがあれば、もちろん年齢もほかの条件も関係のない歌なのです。また皆さんとともに楽しむ機会があることを願ってやみません。



今この街に希望を

神戸マスクワイヤ 宇野 康司

シルバーカレッジ・ゴスペルコンサートにご来場くださった皆様、本当にありがとうございました。私たち神戸マスクワイヤの活動は以下の考えに支えられています。かつての奴隷であったアメリカ黒人が信仰によって得た、差別に屈しない心を私たちは理解したいと考えています。

彼等にとってゴスペルを歌うことが信仰そのものであったことを忘れないグループでありたいと考えています。それは、クリスチャンではない人たちを含むこのグループを聖歌隊と呼ばせているたったひとつの理由であり願いです。しかし、海外で起きた悲しい歴史を部外者の私たちが勝手に理解しようと、音楽活動をしているようにも見えます。本当に、日本人の私たちに理解できるのでしょうか。身近なできごとではないから、ゴスペルを歌えているのではないかという考えがあります。シルバーカレッジ・ゴスペルコンサートの中で、私たち神戸マスクワイヤが歌った曲の中に「今この街に希望を」という曲があります。地震にまつわる、この歌を歌うことができないと考えているメンバーへの配慮に始まり、曲そのものの存在が問われる議論へととなりました。私達は身近な問題に直面した途端に答えを出せなくなりました。

この曲は、地震を直接体験しなかった神戸マスクワイヤのリーダーによって作られました。そして、この歌の歌詞に「主よ私は(震災のことを)忘れない」という歌詞があります。

震災によって辛い思いをしたため、この曲を歌うことができないという人にとっては、地震による苦しみを知らない人のまるで地震を経験したかのような歌詞に対して共感できないかもしれません。地震によって辛い思いをした人にとって『私は忘れない』というのは当然なのでしょう。「部外者に何がわかる」という考えも生じて然るべきかもしれません。しかし、ここで「部外者」と言うことは



は私たち神戸マスクワイヤの活動そのものを否定します。私たちは、アメリカ黒人の心をゴスペルによって少しでも理解したいのです。ですから私は「今この街に希望を」を誰もが歌える歌として残っていけば良いなと感じています。地震を体験しなかった人たちでも心の中で、それを風化させない気持ちを持ち続けるために、この曲が存在し続けてくれればと思います。

1000人のゴスペル大合唱に参加して

神戸マスクウィヤー 松宮 節

初めて今回この1000人のゴスペル大合唱を企画され実現へご尽力いただきました各関係者の方々に厚くお礼申し上げます。

実は私個人的にはシルバーカレッジなる物の存在を知りませんでした。今回初めて訪れてみて素晴らしい施設、澆刺として素敵な笑顔で迎えてくださったスタッフの方々に感激いたしました。私たちは本当に気持ちよく楽しんで歌うことだけを考え、いい一日を送ることができました。

ありがとうございました。ただ一つ心残りなのは歌う前ということもあり、あの美味しいカレーを一杯しか食することができなかつたことと、チョーお買い得なビールやおでんを楽しむことができなかつたことでしょうか。そちらの方はまたチャンスがあることを期待するとしましょう。ゴスペルとは云々、我々KMCのポリシーとは云々をここでくどくど書く気はありませんが、あのコンサートを通して少しでも私達の気持ちが伝わっていればと思っています。

さて今回のイベントに参加させていただくにあたり、私たちがどれほどの努力をし、モチベーションを高めていったかということに関しましては、当日のステージにおいて、ハチャメチャな数々のミスに慌てふためいてしまうという失態を披露してしまいたい。何をか言わんやというところでしょうか。なに分、私のような日本語もままならぬ者どもが、寄ってたかって無理矢理英語の歌詞を頭に叩き込み



歌っているのですから、たまにボロも出るというものでしょう。しかし「心は・魂は・誰にも負けへんでー!」という気持ちと、たとえどんなステージでも確信を持って元気よく楽しんで歌うこと「テクニックより声のでかさ勝負だー!」ということをもっとにしているのですから少々のハプニングは御容赦いた

だき、また聞いてみたいと思われるようなクワイアを目指し日々精進して行く所存ですので、またの機会にお声掛けいただければ幸いです。

最後に、当日悪天候の中、しあわせの村まで足をお運び下さり、我々のライブを盛り上げ一杯歌って下さった会場の皆様ありがとうございました。当日すみやかな進行のためにお力添えいただいた全スタッフの皆さま重ねがさねありがとうございました。また未熟な私たちにいたらぬところのあったことをこの場を借りておわび申し上げます。

1000人のゴスペル大合唱に参加して

平野 恵梨 主筆 大野 恵子 編集

神戸市看護大学

GOSPELADA 荒木 千尋

首記のイベントにお誘い頂いたのは、12月の初旬でした。当時、私たちは他大学のクリスマス会で歌わせて頂くという行事を目前に控え練習に励んでいましたが、それが終わるとすぐ冬休みに入り、実家に帰省するメンバーもあり、なかなか、このイベントに向けた練習に取り掛かることができませんでした。イベントでの課題曲・3曲のうち2曲は以前に歌ったことのある歌だったのと、1000人もの人と歌うこと、神戸マスクワイヤの方々が60人ほど来られるということで安心していただけ、焦りは全くというほどありませんでした。

冬休みも明け、1月6日にリハーサルのため初めてシルバーカレッジに伺いました。そこで今回お世話になる川上先生をはじめ、シルバーカレッジ・グループ“わ”の皆さんにお会いし、本番がどのような感じで進められるのかのお話を伺いました。歌の練習に入り、私は自分たちの考えが甘すぎたことに初めて気付きました。歌ったことのある曲だと思っていた2曲は、私たちが以前に歌った曲とは全く違った編曲だったのです。当然練習では自信を持って歌うことはできませんでした。

9日から大学の授業が始まり、同時に部活動も再開しました。毎週1回の練習を毎日取入れ本番に向けて頑張りました。当日全部で16人出演する予定だったメンバーが直前に都合が悪くなる等の理由で最終的に7人しか出演出来ない事態に陥ってしまい、練習期間が短かったことと不安要素が多いまま、本番を向えることになりました。

リハーサルで初めて神戸マスクワイヤの方々と同じステージに立ち、そのパワーに圧倒され、その時に十分驚かされたのに、本番では更にパワーアップされていた皆さんになおさらに驚かされました。それ以上に、みんなと歌うということがこんなにも楽しいことかと感じ、思い切り歌っている自分に驚きました。今回このステージを経験したことで、音楽的な



刺激を沢山受け、歌うことの楽しさを再認識しました。マスクワイヤの皆さんやシルバーカレッジの皆さんから沢山のエネルギーをもらい、今回参加できなかった他のメンバーにも、この感動を味わってほしかったと思います。これを機会に自分達の部活動がさらに成長して行けたら良いと感じています。

私は現在ゴスペルに参加しているものの、実はゴスペルをやりだしたのはつい最近の10月頃です。だから観客を目の前にして歌ったのは、学校祭くらいしかありません。そのときも緊張して手の震えが止まらなくなって困りました。しかし今回は大きなホールでたくさんの観客を前に、しかも、本格的に活動されている神戸マス・クワイヤーの人たちと一緒に歌うということで、嫌がおうにも緊張が高まりました。私は当日、金髪（ほとんど白ですが）で、しかも看護大では唯一の男なので、かなり目立ったと思います。皆さんから見えて、私の緊張が伝わったでしょうか。今回のイベントに参加して一番感じたことは、みんなで一緒に歌うほど「歌って楽しくなるなあ！」ということです。私たちのゴスペルサークルでは、最大集まっても15人くらいが限界です。たしかにそれでも、歌っているととても楽しいのですが、やはり今回は、言葉は悪いですが率直に“ぶっ飛んだ”という言葉がぴったりきます。神戸マス・クワイヤーの方の迫力に後押しされて、私も普段以上に歌えたと思います。でもなによりも、歌っていると楽しくて、今ここにいるみんなと心をつなげて歌っているのだと、妙に一体感を感じました。それにしても、スポットライトって熱いものですね。緊張していることや動いていることと関係しているのでしょうか、ステージにいる間中、汗がひっきりなしに落ちてきました。Tシャツ一枚でも充分だったかもしれません。

Tシャツといえば、神戸マス・クワイヤーの方たちのは格好よかったです。黒をベースに、赤と白が入っていて、みんなそろって着ておられると迫力があります。私服できていた私たちは、すこし場違いな感じさえありました。今度みんなに提案して、あんなかっこいいTシャツでピシッとキメたいです。

今回招いて下さった“わ”の皆様、本当にありがとうございました。こんな貴重な経験をさせていただきただけでなく、ボランティアで運営や会場準備など完璧にこなしておられて、感謝の気持ちでいっぱいです。しかし、気になったのは皆さんの顔です。それぞれの人が一丸となってイベントを盛り上げようと頑張っておられるせいか、とても生き生きとしておられて、私たち以上にパワーを感じました。年齢をとったからといって誰かにまかせっきりなどという雰囲気はまるでなく、ここはいっちょやっつけてやろうかい!! といういきおいがあり、安心して身をまかせてしまいました。余談になりますが、ひとり暮らしをしていると、どうしても食事が貧相になってしまいます。あの味のしっかりとしみ込んだ、おでんはまさに感動ものでした。家に帰ってレトルトカレーを食べながら、しみじみと思ってしまいました。この経験は、きっとわたしにとってプラスになると思います。本当にありがとうございました。



グループ“わ”のみなさまへ

三木市 グループ『いい日』 多久和 みゆき

このたびは『1000人のゴスペル大合唱』のイベントへのお招き、有難うございました。盛り沢山の企画に楽しいひとときを過ごさせていただきました。

まずは、さらっとしたカレーライス。仮設のふれあい喫茶で作ったのと同じ。口あたりがよくて、からさが後から追いかけてくる昔懐かしい味でもありました。次に、スライスアーモンドの入ったクッキー。味、歯ごたえ共によく、おみやげに買い求めました。他にも、おでんなど、みな手間暇かけて用意して下さった体力と気力に感謝です。

川上盾さん。40才直前、長髪、歌って踊れる牧師さん。驚きの連続です。

歌はもちろんトークも上手だし、私の宗教とは違うけど、それを越えても教会をのぞいて見たくなる魅力がありました。手拍子のところは、とても気を遣いました。パンパンとはじくようにリズムを取る。もちろん「2・4」で、間違っても「1・3」とならないよう必死でした。「私は若い」というところを少しでも見せなければという一心です。もみ手をしている人は、さすがにいませんでした。

ひとつ残念だったのは知らない曲ばかりで、いっしょに歌いたいけど歌えないもどかしさがありました。次回は是非、老若男女が知っている日本語の歌も何曲か混ぜて下さい。知らない者同士、歌を通じて一体感が生まれる。おなかの底から声を出す。みんな歌うことが大好き。みんなの歌声とひまわり柄のチーフに元気をもたらって帰りました。みなさまのお気持ちは忘れません。

ありがとうございました。

KOBE 2001

翔け!未来へ

1000人のゴスペル大合唱

集まれ! しあわせの村へ



Gospel

日時: 2001年1月20日(土) 15:00開演
ところ: しあわせの村 神戸西リハビリテーションセンター
出演: KOBE Mass Choir
指揮: 川上 盾



「1000人のゴスペル大合唱」の受付をして

後藤 慶子（福祉部会G2）

ゴスペル大合唱のイベントがだんだんと具体化してパンフレットが刷りあがったとき、このイベントは私の住む鳴子、星和台のすぐ隣といってもよいカレッジホールで開催されるのだから私もPRに力を入れて、ひとりでも多くの地域の人々に足を運んでいただきたいと思った。

先ず、ファミリーホールへパンフレットを持ち込み、置かせて貰うようお願いをしたが、会長の許可が要るとのことで3回目にやっとOKが出た。受付で話をしている間にも若い主婦らしい方が2・3人パンフレットに興味を示してこられたので、先行きの明るさを感じた。次に鳴子会館だが、あまり人の出入りが多い会館ではないので、役員女性のところへ相談に行くと、私が責任を持って預かりますと云って下さったので、かなりの枚数をお願いした。

イベント当日は朝から雨になり、午前中は役員ばかりホールに目立って、こんな状態でどうしようと心細くなる。私たち受付係りのスタッフもダンボール箱にズッシリのプログラムが最後に残ったら・・・等と心配をしていたが、開演時間がせまるにつれ玄関が賑やかになり、そのうちプログラムを手渡すのに追われるようになった。イベントのチラシを預かって下さった鳴子の役員さんが大勢の友だちを誘って来て下さったのに感謝する。

雨で玄関口に水が溜まったのを黙々と掃出して下さるスタッフの方々、又、道案内の係りも雨の中本当にご苦労様と頭が下がる。ホールも満員になり最後に“聖者の後進”の曲で私達の作ったハンカチーフを振りながら楽しくイベントも終わったので、急いで出口に行き、雨の中参加して下さい下さったお客さまにお礼を申し上げながらお別れをした。

イベントの成否は、いかに人を集められるかということが一つの鍵にもなっているので、今回はとても良かったのではないかと考えている。



「作る楽しみ、贈る喜び」クッキーグループ

森岡 典子 (福祉3期)

私たちクッキーのグループはゴスペル大合唱の一助として、関係者の皆さんへ昼食のカレーと、ご招待客へのプレゼント及びバザーのためのクッキーを作らせて頂きました。

前回の反省を基に、試行錯誤を繰り返し皆様からの美味しいの声を期待しながら頑張りました。カレーは何処の家庭でも又どんな店にもある料理で、皆さんのお口も豊かなため限られた材料で手作りの味を出すところに気がつかれました。

そのあと正規どおりに作って、あれを入れ、これを入れてみると、徐々に味を整えるのに、また3つの大鍋の味を統一することに気を配りました。

しかし、グループ全員が満足の味付けになった時は、とても嬉しく「この味、この味」と手を叩いて歓声を上げました。しかし、これは私たちの満足であって食べて下さる方々のお口には、いかばかりかと心配しました。(2・3の方々に伺いましたところ、)皆さんに美味しいと言って頂き、その中に昔のおふくろの味を思い出したと言って下さった方があり、嬉しさのあまりに感涙し努力の甲斐があったと、喜びをかみしめました。イベントのあるたびにカレー作りをさせて頂いておりますが、そのたびごとに調味料の配合に気配りをして、なんとか手作りのよいところを出すよう努力しております。皆様から「美味しいよ」といって頂くことが作る私たちにとっては、この上ない喜びで又の機会にも頑張ろうとのエネルギーの源になっております。今後とも何なりと忌憚のないご意見をお聞かせ下さいませ。また販売したクッキーは何時も好評を頂いており、「作る楽しみ、贈る喜び」を満喫させて頂いております。ラベルもパソコンで“わ”を表現して下さる方があり400袋作りました。味の方は自信がりましたが、売れ行きが不安でいかがかと案じていましたが、最終的には完売とのしらせにホットしました。私

達クッキーの会のグループは「作る楽しみ、贈る喜び」をモットーに「とっても美味しいヨ」の一言に心が弾み、明るく楽しくボランティア活動に励ませていただいております。



クッキーよく売れています

“おでん”はひかが

—1000 人の大合唱に出店して—

(朝日新聞) 石川 勇典 西村

西村笑子 (福祉4期)

ハ、ゴスペル大合唱のイベントで「おでん」を販売することになり、おでん作りの担当になった。用意された沢山の材料をみて8人のメンバーは驚いた。「何人分作るの」「100人分よ」「えっ」誰も作ったことがない。町内会で40人分位は作った経験があると云うと「じゃあ心配ないわ」といわれ販売するからには変な味では申し訳ない。メンバーの皆さんの持ち味「おふくろの味」で勝負!と思い手分けして前日のお昼過ぎより下ごしらえに掛かった。AさんBさんは大根の皮のむき、CさんDさんはコンニャクの切り目入れ、それぞれが適当の大きさに切り特大の鍋に入れてゆでる、80個の玉子を割れないように静かに鍋に入れゆでる。「ゆで揚がった玉子は丁寧に皮をむかないと形が崩れるから神経を使うわね」とかいいながら皮をむき終わる。厚揚げも湯通しして後はかつお、昆布でだしとり、醤油、みりんで味付けして「うん、いいだしたわ」3つの大鍋にだしを分けて入れ、大根、コンニャク、玉子を入れ煮立てた。間をおいて厚揚げを入れ煮立ったところで下ごしらえは終了。

当日は朝から火にかけ、すじ肉、竹輪を入れて煮込む。調味料を少し入れ味がしみ込むのを待つ、その間にサラダ作りにかかる。時どき味みしては煮汁は良い味だが大根等はしみ込ちょっと心配、試食ない。大根のヘタのさんと分けて味みし込んで上々、一安心!!煮込めば大丈夫、時に調理室はカレーとスされた美味しそうはあいにくの雨、果何人の方が足を運んろうか、おでんは売安になってきた。そだかな」と云ったわで重くて持てない鍋



んでいるかしら、する訳にはいか部分を見付けNた。味が旨くしみこれでもう少しが過ぎるとともおでんでミックな匂いが充満、外たして雨の中をで来てくれるだれるだろうか、不の時「おでんはまよと云われたのを殿方に台車に

乗せて貰い会場へと運ぶ、「はい!おでんはいかがですか」と呼び込むと「おでん頂だい」と2皿、3皿と面白いほど売れた。私たち素人が作った、おでんが売れた、嬉しい、すぐに「美味しいわ」と声が返ってきた。何よりも嬉しい声、メンバーが力を合わせ作った“わ”の味である。喜んで食べて戴けたら作り甲斐もあり本望である。ゴスペル大合唱が始まる前に総べて完売となり、「有難や」皆さまのご協力の賜物と感謝申し上げます。作る喜びを感じ、OH-HAPPY-DAYを大きな声で合唱し、楽しいハッピーな日でした。

♪…1000人のゴスペル大合唱のイベントを終えて…♪

副代表 豊村 栄一（福祉4期）

当日は雨模様、この寒さでは訪れる人も少ないのではないかと不安であったが、震災復興記念事業に沿った、再会、交流の場『もいちど出会えて有り難う』の教室では、当時ボランティアとして活動された1・2期生の先輩の方々、三木市の女性グループ、他の来賓およびシルバーひよどり台自治会の被災者の人たちが一堂に集まり、会場内は6年前の思い出話などが語られ、なごやかなふんいきの中、ティー&ランチタイムとなり、ご満足頂けたと思っています。



お隣の教室では、映画『天使のラブソングⅡ』のビデオを上映。これも予想以上の人気があり、ほぼ満席の状態となりました。メインイベントの『1000人のゴスペル大合唱』では状態の中、異なった熱気、若者のエネルギーあふれる歌声に酔いながら、最後の曲まで聞き入りました。



マスクワイヤ合唱団の川上リーダーに花束が贈られ、挨拶も終わったので、席を立った人もあったが、アンコール曲の『聖者が町にやって来る』が始まった。

誰もが知っている歌であり、多くの人ボランティアの手を借りて作られた『ひまわり模様のハンカチ』が翻り、場内全

体を『ひまわり』が揺れ動く中、大きく歌声が響き渡り、クライマックスを終えたとき、感慨無量、当初の目的が達成できた……と。まずは良かったなァ!と思

った。これもシルバーカレッジの手厚いご支援とご協力、およびグループ“わ”の多くの会員の皆さん方が参画し、ステージ、展示パネル、売店など、賑やかにイベントの催しを盛り上げて下さったおかげで、今回の、われわれグループ“わ”主催のイベントが成功のうちに終了することができました。 感謝 !!



「視覚障害者の目となって」

(脚本 辻新) 一栄 林豊 貴乃郎

あかりの会 朗読グループ 平林 良直

視覚障害者の介助をしている「あかりの会」の中に朗読奉仕の仕事を加えたのは1998年3月のことである。

募集のはり紙をしたところ、11人の応募があった。早速、朗読の勉強会を開き、呼吸法、発声、発音の練習から始めた。垂水区域ヶ山の県立盲学校を訪ね、「何かお役に立てることはないか」を聞き、目の不自由な幼児、児童のために、おじいちゃん、おばあちゃんがお話をしてあげる心を込めたテープを作ることにした。

兵庫県内向けだから関西の言葉で良いではないか、共通語のアクセントでなくても良いではないか。朗読ボランティアを志しながら途中で止めてしまう人が多い。その原因のひとつは、アクセントである。英語は、辞書に「/」の符号で表示されているところを強く発音する強弱アクセントである。間違ったら通じない。日本語のアクセントは、高低である。関東と関西では逆になっていても、通じないことはない。箸は、関東では「ハ」が高い(頭高型)だが、関西では、「シ」が高い(尾高型)である。橋は、関東では「シ」が高い(尾高型)、関西では「ハ」が高い(頭高型)である。では、一休さんの話に出てくる「このはしわたるべからず」の「はし」は、どうか。端は(平板型)、高低差が無い。

一休さんのとんち話では、橋と端のアクセントの違いなのだ。厳密に言うとアクセントの違いを表現しなければ、この話を完璧に伝えたことにはならない。名詞にも、動詞にも、形容詞にも言葉には、それぞれアクセントがある。その上、動詞や形容詞は活用すると複雑にアクセントも変化し、とても面倒だ。「六十の手習い」では手におえない。「昔ばなし100話」を手分けして読んだところ、関西アクセントは勿論、四国・九州・東京アクセントと十人十色で、なかなか変化に富んだ昔話集ができた。

朗読、「声高く読み上げること。特に、読み方を工夫して趣あるように読むこと。」岩波の広辞苑はこのように定義しているが、あかりの会の朗読は「わかるように話す。上手に読もうとしない。」である。

今までに、宮澤賢治の「どんぐりと山猫」、阪神淡路大震災を絵本にした岸本進一の「とうちゃんのオカリナ」、それに「昔ばなし100話」などを録音し、県立盲学校に送った。今は、「イソップ童話集」を手分けして読んでいる。この春にはテープにまとめ盲学校に送ることにしている。

グループの声をご紹介

「聞いてもらうことの難しさを痛感。ほんの入り口に立ったばかり、卒業後も続けたい」

福祉3年・淡路忠義

「盲学校へのテープは、雑音が入らぬよう、夜、風呂場で録音。カレッジに録音室や編集の機材があれば活動の範囲も広がるのと思います」

福祉3年・大島由貴子

「基本から一步一步勉強し、共に学ぶ仲間の繋がりの大切さを只今感じる」

音文3期・原田照子

「読書と朗読の差を知る。70(才)の手習い。入れ歯をガタガタさせながら特訓中」

福祉2年・古田 昇

月1回、火曜日のKSCのゼミ室に集まって勉強会を行っています。暇と興味のある方は、どうぞ覗いて下さい。

声と頭を使うことは長生きの道でもあるとか……………。

朝まばゆい光に目を覚ました。今日の天気気がかりだった。明るい朝、嬉しかった。一番に集合場所のしあわせの村に出掛けた。

今日はD部会の年中行事である外国人支援交流会の集まりのため、ゲストを20人ほど招待している。秋のしあわせの村は街から30分ほどの所に有り、大変魅力的です。静かで、広くて、秋には黄色、赤などの沢山の木々が紅葉して、これらの木立に取りまかれた緑の芝生、また木々の間から透けて見える建物がどんなにか外国の風景を想像させられることか？こんなに美しい景色がこんな近い所にあることを是非知ってもらいたいと思い、このイベントを計画しました。計画には八月頃よりコースの下見をすることから始めました。村の中にはいくつかの、ハイキングコースがあり、その中で一番見晴らしの良いと思われるコースを一つ

選び九月に歩いてみました。おかげで当日には、南は明石海峡大橋、その先には淡路島と、また下にはメルヘンチックな、しあわせの村の赤い屋根がいくつも並んで見え、ゲストの彼等も大変喜ばれました。この日は朝方少し寒かったが、前日までの天候と比べ非常に明るく、澄んだ空のもとでのコースを歩き、その後、キャンプ場にてバーベキューの会食を催しました。全部で参加者は50人ほどになり、うち外国の方は14人と赤ちゃん(4ヶ月)で3家族と若い方々でした。近くにトリムがあり、ハックルベリーの冒険を地で行く筏が有り綱をたぐって池を渡るという遊びもあり、ゲストの小学生も楽しんでいました。それぞれのテーブルでは食事とお話して盛り上がり帰る頃にはお互いにEメールの番号等の交換もあり、お国の話や学校の話と話題にはつきない様子でした。この集いには在校生の方が6人参加して下さいました。国際交流コース3年の岡田京子様が皆様をお誘いしてお世話下さいました。彼女等にはキャンプ場の準備等ほとんどお願いして本当に助けていただきました。私たちD部会は、シルバーカレッジの延長で留学生の方々との交流で少しでも相手の国のことを知り、また彼等の心の不安や悩み等を聞いて、いやしてあげられたらと思っています。今回出席して来て下さった方々の中には初めての方、2回目の方と居られます、前回に参加している方とはお逢いした時からうちとけて会話が始まります、遠慮なくお話が続きます。このような会が私たちの目的でもあり、また少しずつですがゲストの人は入れ変わっています。今日の締めくくりは、お国の歌を唄ってもらいました。イスラエル・ロシア・フィリピン・タイ・台湾と中国の方には去年の会の時、皆で唄った「紅葉」を立谷さんが中国語に訳した歌と一緒に唄いました。このように楽しく語り合うことができ大変満足しています。



ハイ!!事務局です

平成13年度兵庫県ボランティア保険に加入希望者は、各部長または、各地区委員に申し出て下さい。

なお、小グループ登録者は、代表がまとめて名簿を提出して下さい。

インド西部大地震・救援金募金のお願い

このたびのインド西部地区大地震による被災者救援のため、神戸市社会福祉協会より募金協力の呼びかけがありました。私たちも、できる限りの募金活動をしたいと思っております。

☆ 募金箱の設置場所

カレッジ事務局前

グループ“わ”事務局

☆ 期間 平成13年 2月15日～3月12日(月)

(届け先は・神戸市社会福祉協会です)

みなさまのお力添えをよろしくお願い申し上げます。

神戸市シルバーカレッジ社会還元センター

グループ“わ”外国人支援・交流部会

部会長 吉岡 乃夫子

編集後記

★1月は“わ”主催のゴスペル大合唱のイベントを大成功のうちに納めることができました。★カレッジ、マスクワイヤー合唱団、はじめ“わ”のみなさんの絶大のご支援の結集に他ならぬ成果でした。ご苦労さまでした。

★おかげさまで、この15号にはイベントにおける満ちあふれた感激の貴重な想いの数々のご寄稿をいただき、ありがとうございました。

★暦日立春も2月初頭に春声の節目となれど、今年は、雪、冷雨と寒波に……。

★されど今週は雨水(うすい)も迎え、いよいよ水ぬるみ草木も芽生えるころとなりました。★インフルエンザ、杉花粉の季節。ご自愛ねがいます。